

# 令和4年12月定例教育委員会議事録

(白石町教育委員会会議規則第16条及び第17条の規定により作成)

- 1 日時・場所 令和4年12月22日(木) 午前10時30分  
役場3階 大会議室
- 2 出席委員 北村教育長 松尾委員 堤委員 川崎委員
- 3 事務局職員 出雲学校教育課長 谷崎生涯学習課長 梅木主任指導主事  
永石学校教育課長補佐 吉村学校教育課長補佐  
永尾生涯学習課長補佐 川畑教育総務係長  
池田新しい学校づくり係長 山口学校給食係長  
下平指導主事 稲富生涯スポーツ係長  
吉田国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会推進係長
- 4 教育長の報告 別紙資料のとおり
- 5 会議に附した議案  
附議第50号 白石町立小学校再編計画について
- 6 動議の提出者 なし
- 7 議事の概要 別紙資料のとおり
- 8 議決事項 附議第50号議決
- 9 その他
  - ・事務局からの報告
  - ・傍聴者 1名

1 開 会 10 : 41  
出雲学校教育課長

2 前回議事録の承認 10 : 42

1 1月定例教育委員会の会議録を資料により説明

1 1月臨時教育委員会の会議録については、修正等加えたいため次回教育委員会にて承認いただくことの確認

**委員全員承認**

3 教育長の報告 10 : 42

(前回以降の主な動向)

資料より数点を内容紹介。

12/ 4 白石町教育の明日を考える集会

参加者100数名

12/ 7 町議会12月定例会開会

一般質問(9名の議員が質問に立たれ教育委員会関係は6名)

全校一斉オンライン授業参観(北明小学校)

12/17 佐賀県教育フェスタ

須古小学校6年生2名が、県児童生徒ふるさと学習コンクールで最優秀賞を受賞

12/20 コミュニティ・スクール文部科学大臣表彰(北明小学校に決定)

町内学校学級閉鎖状況

(関係情報)

資料により概要の説明。

教員に残業代、文科省が検討…支給認めない法律の見直し議論へ

4 連絡事項 10 : 59

(1) 問題行動月別報告(11月分)について

梅木主任指導主事: 資料により説明。

不登校の定義等含めて説明。

川崎委員: 質問ではないが、先月の不登校とか欠席連絡のことを新しい中学校となった時にどうにかツールとかも使ってみたらというようなことを話をしたところだが、たまたま、白石小学校の電話が最近故障し、その時に「フォームズ」で欠席連絡をしてくださいというマチコミが届き、きっかけは電話の故障であったが、そういう形での代替案

がすぐに学校からも提案をされたためすごく安心したということをお伝えします。色々なツールを活用できるのかなと思った次第です。  
出雲課長：そういうツールを今後は活用して、先生方の業務の簡素化ということも考えていかないといけないと思います。

梅木主任指導主事：補足ですが、このコロナの関連でお休みの情報が非常に増えており、ある中学校ではずっとコールセンター状態になっていた。実際休みだけでなく、結局状況を追わなければいけないという風なところがあり、必ず保護者さんに聞き取りをしないといけない状況等も多々あり非常に難しい問題と感じたところです。今後、単純な風邪での休み等であればそうした情報を活用しなければ、担当の先生がそうしたことに追われるというような現状があるため検討をかなり重ねていかないといけないと話しながら感じたところです。  
(全委員承諾)

## (2) 教職員の服務規律の保持について

梅木主任指導主事：資料により詳細説明。

この資料は、各学校に通知し校長先生より指導いただくようにしている。職員会議で、ただ眼を通すだけでなく読み合わせを行う。また、ファイリングし目のつく位置に置いておくなど各校で服務規律の保持の意識醸成に取り組んでいただいている。先日の校長会では、冬休みに入る前に再度先生方と確認をし、冬季休業に入ってくださいようお願いしている。

堤 委員：服務規律については、各校長先生非常に頭を悩まされ、色々配慮されていると思うが、今年我々の通常自分たちの感覚ではありえないような事が立て続けに起こったということで、色々な意味でほころびが出始める兆候の可能性もある、緩みなのか、色々なストレスを抱えられてとか原因は何かわからないが、通常は見られないことが立て続けに起こったということは、非常に不安なところがあるためその辺をしっかりと注意しながら見ていただきたい。

梅木主任指導主事：事案発生時は、再度校長先生に確認をし、この事案については本来4月当初に必ず点検、報告、実際実物を見ての確認等行っているが、数か月後にはその意識が薄れていたというところ。管理職側からしても点検はしたが、その後チェックが抜けていたというような事案と思っているため、繰り返し継続的にという部分をお願いしている。

堤 委員：私が感じているのは、本来チェックされなくても起こらないことが

起こっているためそこがちょっと不安である。

北村教育長：大人ですから、まさに個人の責任で、他力本願によるものではない。今のご指摘で、やはり緩んでいるといわれても仕方ないのかなあというところがあります。

(全委員承諾)

(3) 12月定例会一般質問の概要について

出雲課長：資料により詳細説明。

それぞれの質問に対しての回答した内容を説明。

堤 委員：部活動の件だが、新聞報道で白石町の部活動が15部と報道されたが、あの印象だと15部を学校部活動として開設するという事が決定したというニュアンスの伝わり方であったが、おそらくそうではなく、今存在する9種目13部プラス文化部2部の15部については、地域移行も含めて何らかの形で受け皿を作るという意味合いまでしかたぶん決定していないという私の認識だが、ちょっとあの伝わり方だと部活動はそれにしますと決定したかのようなニュアンスだったため、そこを確認したい。

出雲課長：答弁もそういう形でしております。

堤 委員：その点が気になっており、保護者さんもその記事を見られているので、今後少し丁寧な説明をしていかないといけない。たぶんあれが前提となってしまう。

出雲課長：来年度中学生になる子どもたちについては、入学説明会の時に開設の部活とか今後の流れというところで、今ある部活は行いうが、開設については地域移行も含めながらというところの話をしているため、その辺りは分かってもらっていると思う。それ以外の人に対してです。

堤 委員：たぶんそれ以外の方もスポーツ団体も含めて、受け取り方は様々だと思う。

出雲課長：その辺は、丁寧な説明を行っていく。

堤 委員：もう1点は、概算要求で100億こえるくらいのこの部活動地域移行で文科省から出ていたのですが、実際予算として認められたのが、30億前後くらいで、補正予算を含めて3分の1行くか行かないか、半分くらいの額しか認められてない。どうも背景には全国町村長会議と全国市長会議の首長会議の中で、相当これに対するクレームではないが、反発があったためその辺で一気に3年で移行するのは難しいだろうというので、最終的な財務省の判断だと思うが、その中で、文科省の方から予定通り来年度から進めるという話があったの

ともう一つは、おそらく全国一律ではなくて、おそらく額自体が3分の1になっているので、モデル市町とかモデルパターンになるのかなという予測もあるようですが、当初の100億というのはおそらく全国一律でということだったのが、ある程度モデル地区を選んでとなった時にそれに積極的に手をあげるのか、どうなのかという問題が出てくるのではと思う。そうなった時にどうするかということは、早めに意思決定はしておいた方がいいかなと思う。

出雲課長：学校再編と絡めて進めていますので、どうしても子どもたちが色々な種目を選べるようなところでの充実は図っていかないといけないと思っている。ただ、堤委員言われたように町村会でも説明会時に紛糾したと、また町村会としても要望書で地域の声をよく聞いて進めるようにというところが出されているそうです。そういうところも見ながら進めていかないといけないと思いますが、国の何かを活用して行うかどうかということは別として、学校再編があり、また現在は5百数十人いるが、十年後には3百人台になるということで、部活が今のような状態でできるか、できないかというような状況になるため、そういうところも見据えて地域に移行できる分は移行して、子どもたちが色々な種目を選ぶことができるような体制づくりをしていかないといけないとは思っています。

堤 委員：休日にしろ、平日にしろ地域移行していった時に受け皿の団体が必要となってくる。例えば小学生のクラブチームとかで時々起こっていたのが、指導者の方針の違いとか保護者間の方針の違いで、分裂というか、同じ競技で一緒にやっていたのに別団体を立ち上げたりということが、過去にも実際あった。これを中学校の受け皿でされると学校現場は非常に困ります。小学生であれば学校は関与されてなくて、単に保護者であったり地域だけでされていますが、この連携という中で、もし週末の受け皿の団体を作られた地域の団体が方針の違いで分裂をするとかなってしまうと、どこと連携するんだということが、非常にややこしくなるため生涯学習課でサポートしている地域クラブについてある一定の条件付けというのをきちんとしておかないと小学生で以前起こっていたことが起こってしまうと、非常に学校現場に混乱をきたしてしまうと思う。そこはまた生涯学習課の方で、要はそういうガバナンスコードとかをきちんと守れているような、あるいは有資格者の指導者をつける等の条件を付けるとか、その辺をきちんとしていかないともうそういうことも起こってくるためそこも検討をお願いしたい。

出雲課長：指導者の研修というところで、スタートコーチの資格を取るとかというところを現在行っている。地域以降の団体については、指導者としてはそういう資格を取った方に行っていただいて、そういう研修面とか、休日の部活の指導者と学校の指導者の連携というそういうところも色々な課題があると思う。今堤委員から言っていただいた貴重な御意見も受け止めながら進めていきたいと思っております。

北村教育長：この件で、課長から報告があつてますが、副教材の件については、先日の校長会でも確認を行ったが、例年使用しているから例年どおりという風にならないようにと、本当にこの教材がどういう風に使用して、どういう効果が出ているのかということをしかり見てやっていただきたいということと、議会でも相対的な資料を出した。学校でも自校のことは分かるが、相対的な見方はなかなかできない。その辺も資料を出して、しかり検討してこういうことを狙ってこういう教材を使っているという説明責任がきちんと保護者にできるような形で進めていただきたいという話をしている。それから部活の地域移行についても、私も先日の議会でも中学校の部活の全てがなくなるような、どうもそういう発言もあつていたようなので、そういう誤解を保護者に与えてはいけないなと思った。とりあえず5、6、7年の3年間で地域移行を具体的に進める方策を各自治体で責任をもって出ささいというのが当面の課題です。先ほどの堤委員の発言のとおり首長さんたちは反対だそうです。1つは部活動というのは、中学校の中で重要な位置を占めてきて、生徒指導も含め、あるいはスポーツ振興にもかかわっているというような位置を占めてきた中で、これがなくなった場合に本当に大丈夫かと、いわゆる日本型の教育の良さという全人教育、教科指導だけでなく全人的な関わりをしているというような、典型的な日本の教育の良さですので、そこをどうするのか、部活動をなくして本当にいいのかというようなところで、それについての文科省の見解は何も出てないというようなことで、そういう批判が続出したということです。スポーツ庁がかなり突っ走っておられて、文科省がこれに対してきちんとした見解を未だに出されてないと思う。そのため少し揺らぐところも出てきているが、佐賀県はSAGA部活というシステムできちんとした体制を組んでおられるため、本町も基山、多久、白石と3つで指定を受けてやっているため、難しいですけど、とりあえず5種目、野球、バスケット、バレー、卓球、陸上この5種目については、何とか地域と一体になって子どもたちが練習できるような環境を是非

準備しましょうということで進めていただいているため、それはそれで、この路線は堅持していいかなあと思っている。先ほどおっしゃったようなそのあとの受け皿、あるいは文化部のこと等々、それから指導者の連携等考えると色々な方の知恵をお借りしないといけないかなあと思う。

(全委員承諾)

(4) 令和6年度 SAGA2024 全国障害者スポーツ大会の競技別会期決定について

吉田係長：資料により詳細説明。リハーサル大会についても説明。

堤 委員：以前お話しした、せっかく両方の大会が開かれるため、ソフト面でのレガシーが白石町としてはどうなのかと話した。東京オリ、パラをする時に国は、東京オリ、パラを契機にこういうレガシー、建物ではなくソフト面でのこういう社会を目指したいというレガシーはこうであるとか、例えば2024であったら佐賀県としては、こういう社会を目指すのだというレガシー。そういうものを残していくというのは、割と明確に打ち出されているが、白石町として何かせっかく両大会開かれるため出されてもいいのではとお話をした。検討するという事だったため、もしあればお願いしたい。

永尾課長補佐：そのあと検討させていただいた。

吉田係長：検討を行った大会後のレガシーについて資料により説明。

国スポの開催基本方針の中にも48年ぶりに佐賀県で開催されるため、この大会を契機として、スポーツを「する」「見る」「支える」という取り組みをレガシーとして受け継ぐ。本町が掲げる「スポーツ健康増進のまち宣言」を推進しながら町全体の連帯感を深め、誰もが協力をし、活躍できる元気なまちづくりにつながる大会を目指します。ということで基本方針の方もしている。大会後のレガシーとして、「大会来場者がまた白石町へ訪れてくれる」、「誰もが自分の個性を生かして活躍できる町」、「ライフスタイルに応じたスポーツへの取り組みの定着」としており、大会後こういう風になるような大会にしないといけないと考えている。

堤 委員：わかり易く示していただくと非常に広まり易いと思われる。国スポについては、20市町全部開催されると思うが、特に全障スポについては、11市町のため約半分の市町でしか開催されない中で、白石町で開催される場所でもあるので、その辺もしっかり生かしていきながら、今説明されたようなことが実現できるようにしていただければと思う。

(全委員承諾)

(5) 第26回歌垣の郷ロードレース大会開催について

稲富係長：資料により詳細説明。

すでに参加者の募集は行っている。令和5年3月5日開催とし、オンライン開催を除けば総合運動場周辺での開催は、3年ぶりの開催となる。今大会は、高校生以上の5kmの部、10kmの部のみを開催。コースについては、10kmの部に加え今大会から5kmの部も日本陸上連盟の公認コースとなった。今回は表彰式、おもてなし等行わないことで実施する。教育委員も選手としての参加をお願いしたい。

(全委員承諾)

(6) 1月行事予定表

川畑係長：資料により説明。

出雲課長：次回教育委員会の日程調整。

(全委員承諾)

(7) その他

川崎委員：国スポの話が出たが、総合グラウンドだが、たまに夜子どもたちと利用するが、北側のトイレの周辺が夜とても暗いのはご存じか。西側は、万葉道路とかのライトがあるが、ものすごくトイレの周辺が夜間になると暗くなっているの、その辺の環境をもう少し見ていただければと思う。スポーツを推進するなら結構走っておられる方も多いが主に男性で、女性だとやはり夜になると複数人でないと危ない面もあるので、その辺も今後見ていただければと思う。

北村教育長：1月8日開催のスーパーアスリート派遣事業の件はどうか。

出雲課長：現在、部活動の地域移行に絡んで県の事業を行っており、2つの事業があり、スーパーアスリート招聘事業とスーパーコーチ招聘事業、コーチの方は、もう各種目ごとに招聘して開催をしている。1月8日がスーパーアスリート招聘事業ということで、佐賀スタジアムで開催される。

下平指導主事：今話されているのが、スペシャルサポーター招聘事業ということで県の教育委員会から委託を受けて、白石町教育委員会と佐賀県の教育委員会と一緒に主催する形で行う。その中で、スペシャルアスリート、世界中で活躍するような選手を招聘できるというような事業になったため1月8日に佐賀サンライズパークの佐賀スタジアム



の方に桐生祥秀選手と山川夏輝選手の2人を呼んで、陸上教室とトークショーを開催する。ただ、コロナ禍のため参加者を100名以内と絞って行うため、白石アスリートクラブの中学生、高校生を中心にそれと佐賀県陸上競技会から推薦された佐賀国スポの強化選手集めての教室となる。一般観覧については、自由観覧となっているためスタンド席にエリアを指定しての観覧となる。白石アスリートクラブの小学生については、せっかくの機会であるため2人の選手と接する機会を設けたいと思ったが、新型コロナウイルス感染対策の件と世代的にあまりにも幅が広い時に指導が難しくなるという理由で白石アスリートクラブの小学生についてもスタンド席の方に特別席を設けて観覧できるようにしております。

北村教育長：主催は県教育委員会と白石町教育委員会の合同開催となっている。  
(全委員承諾)

## 5 附議事項の協議 11：47～

### 附議第50号

#### 白石町立小学校再編計画について

北村教育長：朝からの総合教育会議で町長とも意見交換を行った。これまで素案として説明してきたものを（案）という形で今後住民説明会等進めていくということになるが、これでよいかということで意見をお伺いしたい。

堤 委員：この計画に沿って、色々具体的に特に有明地域の方から話が進んでいくと思うが、この設置に関するところは色々微妙な問題があり、そのためなかなかタイムリーに表に出せない部分もあると思うし、おそらく白石地域ついていえば、白石地域の場所の選定になるとこれもなかなか、タイムリーに議論の過程を出すというのは難しくなってくると思う。タイムリーに出せないものを伏せておくのは、ある程度仕方ない面もあるが、一応記録には残さないといけないというのが一つともう一つは、学校づくりに関するところ、地域性を生かしたこういう学校づくりをするという議論に関しては、あえてそこは伏せる必要はないため割とタイムリーに出してもいいと思う。地域性を生かしたどういう学校づくり、そこも色々な議論が出ると思うため、そこについては比較的、そんなに場所の選定とか学校の校数とかいうほどは気を使わなくていいというか、むしろ積極的にそこはタイムリーにどんどん、どんどん出していくような形をとっていった方がいいかなと思う。

北村教育長：非常に気を遣う内容でもあるが、全てを秘密にする必要はないと、内容によっては公開をしいのではないかとということで、確かにおっしゃる通りでそういう面があると思う。

堤 委員：3校となったが、元々タブレットを入れる時にLTEとWiFiを学校の統合に合わせて導入されているが、そこへの影響はないのか確認したい。

出雲課長：答申に基づいて、無くなりそうなところは、補助金返還の可能性があるのでLTEとした。

堤 委員：すると福富小学校の分はLTEとなっているということで仕方がないが、数年後に更新の時期が来るとそこは、あとからWiFiにするという形か。

出雲課長：そうです。5年で更新が来ますのでそうなる。

北村教育長：LTEモデルにSIMカードを挿してして利用しているが、そのうちLTEというシステムが無くなるのではとまっているところだ。

吉村課長補佐：LTEも課外活動とか使い勝手はありますので、次の更新の国の方針がどうなるかというところで考えていかないといけないかと思う。

堤 委員：意外と5年は、あっという間なため福富小学校にそのWiFi環境の整備をするのか、しないのかという選択肢が出てくると思う。

吉村課長補佐：全国的には次の端末購入の補助をという声も上がっているため、そういう話も出てくるかと思う。補助をどうやって活用するかというのも一番かと思う。

#### 委員全員承認（附議第50号）

#### 6 その他

特になし

#### 7 閉会 11:53

出雲課長